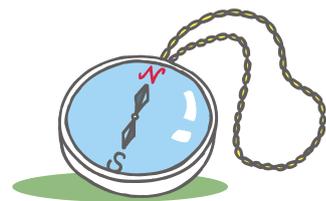


羅 針 盤



第 5 号 令和3年（2021年）5月10日（月）

◆ 『いじめについて考える日』

住吉中学校では、違いを認め合い、互いに相手を思いやる集団育成に重点をおいた教育活動を展開しています。生徒の皆さんも十分に理解していることとは思いますが、「いじめは生命をもおびやかす行為であり、人間として絶対に許されない行為」です。仲間はずれ、冷やかしかやからかい、誹謗中傷、・・・、自分がされて嫌なことは、誰がされても嫌なことです。「いじめ」は、絶対に許されるべきことではありません。生徒の皆さんの誰もが、安全で安心して学校生活を過ごす権利を持っています。常に相手の立場に立って物事を考え、友だちが抱えている課題を自分の課題として捉えて、時と場合によっては、学級や学年、学校の課題として考えることが何よりも大切なことです。課題の解決に向けて、共に考え、協力し、支え合えることが大事なことです。全ての人々が持つ人権を守ること、誰もが生きていく権利を有することを当たり前のことではあるけれど、今一度しっかりと振り返るとともに、考える時間を持ってもらいたいと考えています。

保護者の皆さま、「いじめ問題」に限ることなく、ご家庭で何かお困りのことがありましたら、些細なことでも構いませんので、学校の方へご相談ください。学校にできることも、確かに限界はあるとは思いますが、保護者・地域の皆さまとしっかりと手を携えて、子どもたちにとってより良い教育活動や一人ひとりの子どもたちにとって少しでも多くの支援できる活動を展開して参りたいと考えています。（校長 坂井 伸治）

◆ 命とは君たちが持っている時間である

聖路加（せいるか）国際病院の名誉院長であった日野原重明（ひのはらしげあき）さんが、一貫して人生におけるテーマとしておられたのが『命の尊さ』です。定期的に小学校に出向かれてお話されていたとき、必ず子どもたちに「命はどこにあるの？」と尋ねておられました。子どもたちの多くが、心臓に手を当てて「ここにあります」と答えたそうです。そうすると日野原先生は「心臓は確かに大切な臓器ではあるけれど、頭や手足に血液を送るポンプの役割をしているだけで、命ではないんだよ。命とは感じるものであり、また、空気のようにとても大切なもので、目には見えないけれど、空気があるから生きていられるのと同じように、本当に大切なものは目には見えないんだよ。」と答えられたそうです。そして、「命はなぜ目には見えないのか。それは、命とは君たち一人ひとりが持っている時間だから見えないんだよ。」と。「死んでしまったら、自分で使える時間もなくなってしまふ。一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかりと考えながら生きていってほしい。そして、その命を自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。」と話されていたそうです。目には見えないけれど、一人ひとりの誰にとってもかけがえのない『命』、自分自身が持っている時間を少しでも無駄にすることなく、生きてこれたのか、そして、これから無駄にすることなく、自分だけのためだけでなく、人として社会に役立てるように過ごしていけるのか、日野原先生がテーマとされていた『命の尊さ』は、私たちの日常の行動を振り返るための大きな指針となるように思います。

